

ADHD（注意欠陥障害）の売り込み The Selling of Attention Deficit Disorder

アラン・スウォーツ

By ALAN SCHWARZ

ニューヨークタイムズ紙 2013 年 12 月 14 日

New York Times, December 14, 2013

http://www.nytimes.com/2013/12/15/health/the-selling-of-attention-deficit-disorder.html?_r=0

翻訳：寺島隆吉&寺島美紀子



「これは薬物治療から逸脱していることを、空前かつ不当なレベルで正当化するための策謀だ」、心理学者で ADHD 認可を初期から提唱していた人物キース・コナーズは、ADHD の診断率が上昇したことについて、こう述べた。（カルステン・モラン記、ニューヨークタイムズ紙）

キース・コナーズ Keith Conners は、ADHD（注意欠陥・多動性障害、AD/HD: Attention Deficit / Hyperactivity Disorder）を認知させる闘いを 50 年以上も先導してきたのだから、今や彼は祝杯を挙げることができるだろう。

というのは、ひどく多動性で衝動性のつよい子どもは、かつては悪い種(バッド・シード)として寄りつかれもしなかったものだが、いまでは真性の神経的障害をもつ者として認知されているからだ。

医者と親は、典型的な ADHD 形質を抑制するアッダオール Adderall やコンサータ Concerta という医薬品を大いに受け入れるようになってきた。それで若者たちは学校や卒業後も成功を収められるようになってきている。

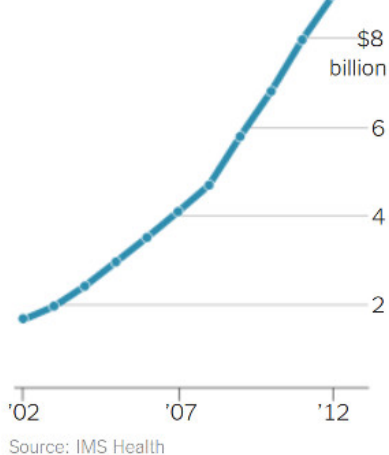
しかしコナーズ博士は今秋ワシントンの ADHD 専門家会議で講演をしたとき、意気揚々とした気分にはとてもなれなかった。彼は指摘した。疾病管理予防センターの直近データによると、高校生の子ど

もの 15%に ADHD 診断がなされ、薬物治療に該当する子どもの数が 1990 年の 60 万人から 350 万人に急増してしまっている、と。彼は診断率の上昇に疑問を投げかけ、それを「国民的大災害」と呼んだ。「診断率があまりに大きすぎて危険すぎる」と言うのだ。

「ADHD が伝染病であるかのように思わせる数字だ。だがそうじゃないはずだ。全くばかげた事態だ。」心理学者でデューク大学名誉教授のコナズ博士は、講演後の会見でそう述べた。「これは捏造だ。空前かつ不当な量の薬物を提供することを、正当化しようとする診断だ」

Stimulant Sales

Sales of prescription stimulants have more than quintupled since 2002.



ADHD の診断率が増加し、何年にもわたって薬剤を処方しつづける傾向は、製薬会社の 20 年間にもわたる宣伝の目覚ましい成功と軌を一にしていた。それは ADHD という病気を公認させ、医者や教師や親に錠剤を販売促進することになった。いまや医薬品産業は、子ども市場の急発展にともなって、大人の ADHD にも焦点を合わせ、子どもと同じような販売戦略を採用している。大人のほうがさらにもっと儲けが期待できるからだ。

典型的な ADHD は、昔から子どもの 5%にみられ、それが学校・職場・私生活での成功を妨げる要因になっていることに異議を唱えるひとはほとんどいない。薬物治療は、激しい衝動と集中力欠如をしばしば緩和し、そのひとに内在する衝動と知能をより発揮させる。

しかし ADHD に長年とりくんできたひとのなかにすら、次のように言うひとが出てきている。ADHD の子どもをすべて見つけ出して治療しようという熱意は、結局のところ、ちょっとそれらしい症状があるという理由だけで過剰な数のひとを ADHD だと診断し、薬物治

療を受けさせることにつながったのだと。疾病対策センターのデータをニューヨークタイムズ紙が分析したところ、ADHD は、今や子どもに対する最も頻繁かつ長期にわたる診断となっており、それを越えるのは喘息だけである。

その成長の陰にあったのは製薬会社の販売戦略であった。不注意やイライラのような比較的正常な行動まで典型的な ADHD の症状に含めることにして、薬の効能をしばしば大袈裟に宣伝してきたことである。テレビや『ピープル』『ハウスキーピング』のような大衆雑誌の広告で、ごく普通の子どものみられる健忘症や学業成績の悪さを ADHD のせいだとし、薬を飲めば「知能に見合う学業」が得られると宣伝して、家族の心配を緩和することもできると宣伝してきた。

アッダオール 2002 年の広告では、母親が息子と遊んでいて、「ゴミを片付けてくれてありがとう」と言っている。[薬剤アッダオールのおかげで、ゴミ片付けもできる子どもになったという宣伝だ]

2000 年以来、食品医薬品局 (FDA : The Food and Drug Administration) は、すべての大手 ADHD 製薬業の広告を、誤った紛らわしい広告だという理由で複数回にわたって勧告してきた。アッダオール Adderall、コンサータ Concerta、フォチャリン Focalin、ビバンス Vyvanse のような覚醒剤 (stimulant) や、イントニブ Intuniv、ストラテラ Strattera のような非覚醒剤 (nonstimulant) などの広告である。

一見して中立的であるように思われる情報源も、製薬会社からのメッセージを伝えてきた。たとえば製薬会社からお金をもらって研究公表する医者や、もっと頻繁に ADHD の診断を受けなさいと励ますような講演をする医者などである。彼らは、過剰診断ではないかという懸念の高まりを打ち消す役割をしているのだ。

それどころか、その薬を副作用のない無害なものとして描く医者が多い。“アスピリンよりも安全”だと言うひともある。重大な副作用があり、じっさいに乱用や中毒の可能性があるのでモルヒネやオキシコドンと同程度に規制されているにもかかわらず、無害だという医者が多いのだ。

また患者擁護団体も政府に薬剤の規制緩和をするよう働きかけた。その運営予算のかかなりの部分を製薬会社の利益によって賄（まかな）ってきたからだ。

製薬会社はいかに ADHD を売り込むか（ビデオ）

ADHD の広告をそれほど効果的にしているのは何か？ ハーバード大学の教授アロン・ケッセルハイム博士 Dr. Aaron Kesselheim はいくつかの広告を分析し、そのうち幾つが、子どもにたいする親の一般的な心配に効果を発揮しているかを論じている。



製薬会社はみな、若者に直接に語りかけようとさえる。シャイヤ社 Shire は、アッダオール Adderall など数種の ADHD 薬をもつ長年の業界大手だが、最近 5 万部の漫画本に補助金を出した。それは、病気の謎を解き明かし、スーパーヒーローを使って子どもたちに語りかける。「集中力を保ったり行動を制御するのが、薬で簡単にできるようになるかもしれないよ！」

ADHD 製薬会社の利益は急上昇した。データ会社 IMS ヘルスによれば、2012 年の ADHD 薬の販売は 90 億ドル近くにもなった。10 年前の 17 億ドルの 5 倍以上だ。

アッダオールを 1994 年に発売した製薬会社の幹部ロジャー・グリッグス Roger Griggs でさえ、自分はその危険性ゆえに一般大衆に覚醒剤を販売することには強く反対だと述べた。かれはそれを「核爆弾」と呼び、極端な状況下でのみ、また内科医によって注意深く監督される場合に認可されるものとした。

精神衰弱と自殺願望は、覚醒剤中毒の最も稀で極端な結果だが、そのような恐ろしい物語よりもはるかに多いのは、長時間にわたって勉強したり働いたりしようとして何日間も眠れなくなり、食欲がなくなって幻覚を生じるような人々だ。もっと多いのは、単に薬に慣らされてしまって、それ無しではやっていけなくなると感じる人々なのだ。

ADHD 部門を監督するシャイヤ社の副社長トム・カソーラ Tom Casola は、あるインタビューで言った。ADHD をもつひとに効果的な治療を提供することを会社はめざしており、医者への責任は詰まるところ適切な診断と処方することだと。彼はまたこうも付け加えた。強引な広告について食品医薬局 FDA その他が表明した懸念のいくつかについて自分はよく承知している。そしてこうも言った。ガイドラインに抵触するような宣伝文句はすでに入れ替えた、と。

「シャイヤ社——そして圧倒的多数の製薬会社はみなそうだと私は思うが——は責任のとれるやりかたで、また規制に従って商売をしたい」とカソーラ氏は言った。「もう一度言うが、私たちはもっと高い立場から対処したいと思っている。私たちは患者の健康に対処しているんだから」

ジャンセン製薬会社（コンサータをつくらしている）のスポークスマンは E メールで次のように述べた。「何年ものあいだ、私たちは臨床医・親・擁護団体とともに働き、ADHD の診断と治療について開業医や介護士の教育に尽力した。たとえば薬物による安全で効果的な治療方法など。」

シャイア社と2つの患者擁護団体は、いまや大人に狙いをさだめ、マルーン5 (Maroon 5) という5人組ロックバンドのアダム・レヴィーン (Adam Noah Levine) のような有名人を販売促進に起用した。「それが君の病気だ。そのままもってればいいさ」。



製薬会社が資金提供したオンラインによる質問は、人々に治療を勧めようと狙っている。シャイア社が資金提供した医学教育ビデオは、内科医が6分間の会話で大人のADHD診断をおこなっているところを映し、そのあと医者が薬物治療を勧める。

ほとんどの精神状態も同じだが、ADHDについても、それと明確に診断できる確定的な検査はない。その分野のほとんどの専門家は、その症状の判断が患者・親・医者 of 解釈に任されているという点で意見が一致している。米国精神医学会は、製薬会社からたいへんなお金をもらっているので、ADHDの公式基準を徐々に緩め、「ちょっとした不注意」や「自分の順番が来るのを待ちきれないことがよくある」というような、ごく普通の子どものぼい行動までもADHADに含めるようになった。

ADHAD薬が子どもの問題行動・精神的緊張を緩和するかも知れないという考えは、心配性の親や治療を急ぐ医者などにとって魅力的に映ったのだ。

「製薬会社は押しに押しまくったが、ADHDをウィルスのせいにだけはできない」とカリフォルニア州ウォールナットクリーク Walnut Creek の行動小児科医ローレンス・ディラー博士 Dr. Lawrence Diller は述べた。「伝染病が広まるには感染しやすい宿主がいなければならない。製薬会社が利用して儲けようとする対象が、私たち医者のまわりにはいることは確かだがね」

医者に売り込む

現代の覚醒剤販売はアッダオール Adderall という名前で始まった。グリッグス氏 (Roger Griggs) はオベトロール Obetrol という名の痩せ薬をつくる小さな製薬会社を購入した。彼はそれが、ADD (注意欠陥障害: attention deficit disorder) と呼ばれる症状を治療するかも知れないと考えた。それは当時、子どもの3~5%程度に見受けられ、比較的正しく診断されていなかった症状で、彼は「ADD」という頭文字に洒落た接尾辞を工夫して最大純益をあげる言葉を編み出したのだ。

All	すべて
For ADD	ADD (注意欠陥障害) のための
ADD for All	すべてのための ADD (すべてに飲まそう)
Adderall	アッダオールを



グリッグス氏は当時を思い出して、「この薬をやせ薬としてだけでなく、ある種、万人のためのものにするつもりだった」と言った。



ロジャー・グリッグスは、薬物治療を学業成績と行動を改良する方策だと描く広告が認可される前の、1994年にアッダオールを紹介した人物だが、消費者に直接に覚醒剤を「販売促進しようなどというのは、もともと無理な相談です」と言った。(ニューヨークタイムズ紙のカルステン・モラン)

アッダオール Adderall はその業界で最も人気のある薬リタリン Ritalin の競争相手として急速に定着した。シャイヤ社 Shire は、その薬の潜在能力を認識し、グリッグス氏の会社を1億8800万ドルで購入し、その錠剤を医者に売り込むために数百万ドル以上を費やした。結局、患者が買うことができるのは内科医が買い込んだものだけなのだから。

製薬会社のあいだではいつものことだが、シャイヤ社も説明会で数百人の内科医を集め、その集会では会社からお金をもらった内科医が新薬の価値を説明した。

2002年にはそのような説明会が、シャイヤ社の長時間持続型アッダオール「アッダオール XR」を販売するために開かれ、研究発表もおこなわれた。それは、その薬剤を批判する多くのひとたちにとっては、ADHDの説明宣伝が如何にいかがわしいかを実証するものだ。[なにしろ会社からお金をもらった内科医が新薬の価値を説明するのだから]

デンバーの精神科医ウィリアム・W・ドドソン博士 Dr. William W. Dodson が、カリフォルニア州パサディナ Pasadena にあるリッツカールトンホテル&スパ (Ritz-Carlton Hotel and Spa) で、70人の医者の前に立ち、スライドをクリックしながら、「死ぬまで続く病気と死ぬまで治療を受ける恩恵について患者を教育」するよう、医者をもめました。しかしその主張は科学に基づいてはいなかった。その当時も、また現在の研究でも明らかになっていることは、ADHDの子どものおそらく半分は大人になっても障害を持ちつづけているわけではなく、長期投薬が危険なのか効力があるかについてもほとんど

ど知られていないからだ。

ニューヨークタイムズ紙が入手したパワーポイント文書は次のように主張していた。覚醒剤は「乱用薬」ではない、なぜなら過剰投与されても「何も感じない」か「気分が悪い」と思うだけ（つまりはハイにならない）からだ。しかしこれらの薬は、政府の分類によれば、薬のなかで最も乱用の危険性のある物質として分類されている。なぜなら集中力や心的状態に大きな影響を及ぼすからだ。飲み過ぎは激しい心臓疾患と精神異常の行動を引き起こしうる。

また上記のスライドは、アッダオール XR の副作用を「一般に穏やか」であると述べていた。しかし臨床実験では不眠症、深刻な食欲不振、気分変動にかなりの率を示し、また幻覚も発症率はまれではあるが実際にあるという。そのような副作用が、処方以上に錠剤を飲む患者のあいだで著しく増加している。

また別のスライドでは、ADHD をもつ子どもは以後の人生で「仕事上の失敗や失業」「致命的な自動車事故」「犯罪に巻き込まれること」「望まない妊娠」そして性病に直面すると警告していたが、覚醒剤がその危険性を減らすかどうかをその研究が評価していなかったことには、言及しなかった。

ADHD and the New Standards of Care

William W. Dodson, MD
Denver, Colorado

Sexual Behavior

- Longitudinal follow-up of cohort of children with ADHD shows:
 - >50% tested for HIV
 - Of 43 children born to study participants, 42 were born to those in the ADHD group
 - limiting their academic and occupational attainment
 - 54% of these had lost custody of the children

Barkley. *Attention* 1996;8-11.

Continuation of Impairment of ADHD

Childhood	▶ ▶ ▶	Adulthood
School failure / under-achievement	Becomes	Job failure or under-employment
Multiple injuries	Becomes	Fatal car wrecks / risk taking
Drug experimentation	Becomes	Drug dependence
ODD / CD	Becomes	ASPD, criminal involvement
Impulsivity and carelessness	Becomes	Unwanted pregnancy, STDs, etc
Repetitive failure	Becomes	Hopelessness, frustration, giving up

Standard #3

Continue to treat the disorder

All Day

Every Day

Lifelong

デューク大学のコナーズ博士 Dr. Connors は、その日の聴衆のなかにいたが、次のように言った。そういう宣伝は、製薬会社がスポンサーになったそのような説明会では、いつものことだ。彼らの処方する薬は無害で、ADHD 症状のいかなる徴候も覚醒剤で治療されるべきだ、と言うのだ。それは、睡眠不足や家庭不和を含め、多くの問題が原因になっていることもありうるのに。

先月のインタビューで、ドドソン博士は言った。自分は1年に約300人の患者を新たにADHDだと診断している。また、ADHDの多くの子どもが大人になったときもその症状が続くわけではないという

研究にはとても賛成できかねる。だから、死ぬまで覚醒剤を飲み続けることをいつも勧めていると。

ドドソン博士が言うには、乱用と副作用について懸念することは「信じられないほど度が過ぎている」、また自分が長年、製薬会社のために働いてきたことは事実だが、それは自分の意見に全く影響を与えていないと。彼はシャイヤ社のための2002年の講演で約2000ドルを受けとったという。その支払いを追跡しているプロパブリカ ProPublica によれば、彼は2010年から2011年に、製薬会社から講演料として4万5500ドルを稼いだ。

「もし人々が助けを求めているならば、私の仕事は彼らがそれを手に入れられるようにすることだ」とドドソン博士は言った。処方箋を書く内科医が製薬会社からお金をもらっていることについて人々が懸念していることに関しては、彼はこう付け足した。「皆さんはよくできあがった陰謀説が好きだからね。だけど、そんなことで私をおさえつけることはできないよ」

製薬会社のために講演するひとたちが引き合いに出す多くの科学的研究のなかには、ハーバード大学とマサチューセッツ総合病院の著名な児童精神医、ジョセフ・ビーダーマン博士 Dr. Joseph Biederman のものも含まれていた。2008年の上院の調査によると、ビーダーマン博士の精神病的症状についての多くの研究が、主に製薬会社から資金提供されていた。そのなかにはシャイヤ社も含まれていた。会社はこれらの講演や相談料として彼に160万ドルを支払っていた。彼はその支払いが自分の研究に影響を与えたことはないとは否定した。

コナーズ博士は、ビーダーマン博士を「ADHDにかんする最も多くの論文を発表した精神病理学の大家」と呼んだ。覚醒剤を是認し、それを貶（けな）す人々を追い払ったことで有名な人物なのだ。ビーダーマン博士のADHDにかんする何十もの研究結果と、それによって特別なお墨付きをえた覚醒剤が、その研究に融資した製薬会社のポスターやパンフレットを埋め尽くしている。

それらの発見は典型的に3つの内容を伝えていた。1) ADHDの実状は過小評価されてきた。2) 覚醒剤は効果的で安全だ。3) そして薬物治療されていないADHDは、学業での失敗、薬物依存症、自動車事故、警察沙汰といった重大な危険に通じる。

覚醒剤の効能についてインタビューや製薬会社の新聞発表がなされる時、ビーダーマン博士は頻繁に引用された。たとえば2006年、彼は『ロイター通信』の健康欄で次のように述べた。「才能があるのに学校の成績がただの可なら、その子どもは治療が必要だ。治療すれば学校でも才能を発揮して優をとることになるだろう」

今年、そのようなADHDのための薬物治療を主張している医学新聞『メディスコープ』で、ビーダーマン博士は述べた。「薬をもたずに家を出るな」「家を出るとき薬の持参を忘れるな」

ビーダーマン博士にインタビューを申し入れたが返事はなかった。

ビーダーマン博士を批判するひとたちも、そのほとんどは、彼の初期の動機がADHDをもつ子どもをつねに助けることであつたと自分たちは信じているし、治療されていないADHDは確かに深刻になりうることを認めている。ただ彼らが懸念しているのは、社会的地位の高いビーダーマン博士が揺らぐことなく覚醒剤を勧めつづけたことで、「公表された科学」という武器で製薬会社を武装させてしまったことだ。強力な広告をつくりあげるのにそれが必要だったからだ。広告の多くは、ADHDであるとはとても思えない、単なる子どもっぽい行動も、薬物の処方こそが子どもに優しい解決策なのだと、でっち上げているのだ。

「彼が信頼性を与えてしまったのだ」と、覚醒剤について広範囲に書いている、カリフォルニア大学バークリー校の保険経済学および公共政策の教授、リチャード・M・シェフラー氏 (Richard M. Scheffler) は言った。「彼はバランスを欠いていた。それは効果があるからもっと広く使われてもよいと過信するようになったのだ」

広告をつくりあげる

製薬会社はビーダーマン博士たちの研究を、医者を対象とした説得力ある広告をつくるために利用した。「アッダオール XR は学業成績を改善する」、ある広告が 2003 年に精神医学雑誌で宣言した。シャイヤ社から研究費を得てなされた、2つのビーダーマン博士の研究に、手を加えたものだ。コンサータの広告は ADHD にはほとんど言及しないが、薬物治療で「あなたの患者は毎日、人生の成功を経験することになる」と言っていた。

研究のなかには、注意深く調べた上で ADHD だと診断された小学生が、覚醒剤による薬物治療をすることで、読み取りや算数のテストで点数が改善された事例があったことは事実だが、それは主として集中力を増すのに役だっただけである。懸念事項として次のことを指摘する医者もいた。長期で広範囲の学業における効果がいまだ証明されていないこと、また、効果があると示唆する広告で（おそらく無意識に）医者をも誘惑して、健康な子どもに危険を伴う薬を処方させることになるかもしれない。ただ単に学業成績をあげるとか自負心のために薬を欲しがるとか子どもや親が出てくるからだ。

Adults with **ADHD** were almost **2 times** more likely to be divorced*

DIVORCED

Because adults with ADHD may have a lot to lose...
Diagnose. Treat. Monitor.

Go to www.consequencesofadhd.com to sign up for valuable adult screening tools and patient support materials.

*Results from a survey of 500 adults with ADHD (self-identified as having been diagnosed with ADHD by a clinician in the community during adulthood) compared with 500 gender- and age-matched controls from a national sample. Adults with ADHD were significantly more likely to be divorced as compared to controls (30% vs 15%; P<.001).

Reference: 1. Biederman, J., Faraone, S.V., Spencer, T.J., et al. Functional impairments in adults with self-reported diagnosed ADHD: a controlled study of 1501 adults in the community. *J Clin Psychiatry*. 2006;67:524-540.

The information is brought to you by
Shire US Inc.

©2008 Shire US Inc. All rights reserved. ADHD02 10/08

Shire

ADHD の広告

製薬会社は ADHD 薬のマーケティングを何年にもわたり変化させてきた。最近では、離婚や交通事故のような問題が利用されている。大人にアピールするからだ。1990 年代の広告は学業成績向上を中心的な効能として宣伝したし、さらに初期の広告は「うつ」と「問題児」に焦点があてられていただけだった。

(出典：さまざまな医学雑誌と消費者雑誌)

http://www.nytimes.com/2013/12/15/health/the-selling-of-attention-deficit-disorder.html?_r=1&#

「広告がいかに医者の処方行為に影響を与えるかという数十年にわたる研究がある」と、ボストンのブリガム女性病院 Brigham and Women's Hospital のアロン・ケッセルヘイム博士 Dr. Aaron Kesselheim は述べた。彼は医薬品の倫理学を専門としている。「たとえ医者が、偏見のない根拠ある情報を患者に与えていると言ったとしても、実際には製薬会社が医者に行ったことを言いがちだ。それが薬の効果であっても、薬の危険であっても。」

また製薬会社の広告は、医学雑誌にとっては広告費が入るので、雑誌社にとっても良い商売になる。薬の使用を支持する論文を、その同じ雑誌が公表しているのだから、お互いに利益になるというわけだ。その分野でもっとも権威ある出版物、『子どもと思春期のアメリカ精神医学会ジャーナル』The Journal of the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry は、1990年から1993年まで、1年あたり約100頁、ADHD薬の広告は一切なしで発行していた。10年後には、ページを埋め尽くすフルカラー広告のほとんどすべてがADHD薬のものだった。

製薬会社の販売戦略においては合法的で一般的であるのだが、不眠症・イライラ・その他の精神的症状など、覚醒剤で起きる可能性のある副作用は、見えないほど小さな文字で印字されていて、誰も読まないし誰も読めない。また、あるアッダオールXRのパンフレットには、医者を安心させるような男性の声の録音テープすら付いていた。「アンフェタミン Amphetamine は、ほとんど70年間ものあいだ医療で使われてきています。それは頼りにすることのできる安全性という遺産です」。その声は副作用には全く言及していなかった。

製薬会社はその薬の販売促進に販売部代理人を使った。シャイヤ社の2001年から2009年までのアッダオールXR販売員ブライアン・ルッツ Brian Lutz はこう言った：自分はカリフォルニア州オークランドの精神科医75人に会った。そこが少なくとも2週間毎に行く販売区域だった。したがって毎年それぞれ約30回から40回訪問したことになる。そして彼らに、この薬が学業や行動に役に立つことを強調したポスターやパンフレットをみせた。

もし精神科医が副作用や薬物乱用のような問題について尋ねてきたら、その危険性を小さくみせるようにしてきたとルッツ氏は言う。製薬会社からは、法律上の理由から、こともなげに淡々と危険性を認め、それもパッケージのなかに小さい文字で印字されたものだけに触れるか、あるいは詳細についてはシャイヤ社の電話番号を提示するかしろ、と指示されていたという。

ルッツ氏は思いだして言った。「私は次のような言い方はしませんでした。たとえば‘これは深刻な副作用です、だから注意する必要があります’といった言い方です」「私たちはこの子どもたちのことについて話しているのだから、もっと情報を彼らに与えたほうがよかったですよね？しかし全くもって正反対だったのです」

あるシャイヤ社のスポークスマンは、会社は特定の代理人についてコメントするつもりはないと述べ、次のように言った。「シャイヤ社の販売代理人は、我が社の製品の安全性にかんする情報を含む、公正でバランスのとれたプレゼンテーションをおこなうように訓練されている」

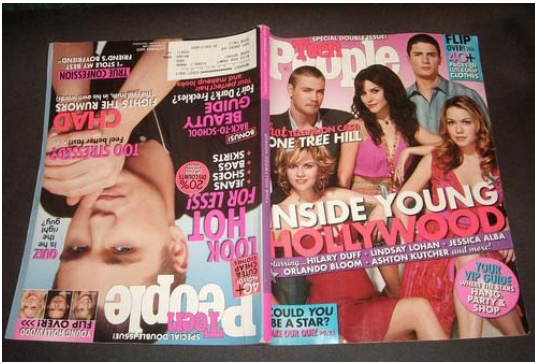
ルッツ氏は、いまは修士号をとろうと大学院に通い、精神衛生の分野で働くことを希望しているが、自分のシャイヤ時代の仕事を、釈然としない気持ちで思い起こしている。

自分は決して嘘をついたわけでも嘘をつくように言われたわけでもなかった。彼が言うには、自分はADHDの子どもや大人のために、アッダオールXRやそれと同等の覚醒剤をただ勧めようとしただけだった。しかし、後悔しているのは、「まるで車か何かのようにこういった錠剤を売ったことだ。単に車じゃないと分かっていたのに」と彼は言った。

親に売り込む

2005年9月、『ピープル』誌の定期購読者は、クリスティ・アレイ Kirstie Alley の腰のくびれ、マット・デイモン Matt Damon の婚約など特集した号で、アッダオールXRの巻き付け広告（雑誌全体をくんだ広告）を目にした。

一人の母親が、紙を手にし微笑んでいる子どもを、抱きしめていた。その紙には「B プラス」とあった。「ついにやった！」と母親は言った。「息子の知能に見合った学業成績よ」



FOR PARENTS OF CHILDREN WITH ADHD

Finally!

Schoolwork that matches his intelligence

Family hours that last for hours
 Friends that ask him to join the group
 A trusted solution for ADHD

ADDERALL XR*

- Has been evaluated for safety in over 20 clinical studies
- Shows a 64-year history of clinical research
- Works fast for the start of the school day—with or without food
- Offers all-day symptom control

Doctors trust ADDERALL XR, the most-prescribed brand of ADHD medication!

Ask your doctor whether your child could benefit from ADDERALL XR.

ONE-DOSE DAILY
ADDERALL XR[®]
10 mg, 20 mg, 30 mg, 40 mg, 60 mg, 80 mg, 120 mg capsules

www.adderallxr.com
 1-800-705-5513

Important Safety Information:
 ADDERALL XR was generally well tolerated in clinical studies. The most common side effects in studies involving children included decreased appetite, difficulty falling asleep, stomach pain, and decreased ability. The most common side effects in a study involving adults included dry mouth, loss of appetite, insomnia, headache, and weight loss.
 ADDERALL XR may not be right for everyone. Patients should speak with their doctor if they have a history of high blood pressure or any heart conditions, glaucoma, thyroid problems, emotional instability, mental illness, or a known allergy to this type of medication. If you are currently taking or have ever taken a type of antidepressant called a MAO inhibitor or have a pre-existing structural heart abnormality, you should not take ADDERALL XR. There is a potential for worsening of mania in adult boys and teenage's conditions.
 Abuse of amphetamines can lead to dependence. Abuse of amphetamines may lead to serious cardiovascular adverse events. A patient should report any new psychological symptoms to his or her physician.
 Do not use any form of smoking, electronic or other, just for non electronic, avoid per physician.
 ©2010
 All rights reserved. ©2010 Adderall XR Inc. All rights reserved. 1001 10/10

連邦政府のガイドラインが 1990 年代終わり頃に緩和され、覚醒剤のような統制医薬品の一般大衆への

直接販売が許可されたとき、製薬会社はすべてのなかでおそらく最も売り込みやすい消費者をターゲットにしはじめた。すなわち親、とくに母親だ。

コンサータ Concerta の雑誌広告は、感謝している母親にこう言わせた。「学校でのテストの成績が良くなった、家では家事をよく手伝ってくれる、私が励ましてきた自立も、私がいつも期待していた笑顔も」。

インテュニブ Intuniv の 2009 年の広告（シャイヤ社の ADHD のための非覚醒剤治療）では、怪獣スーツを着た子どもが毛むくじらのマスクをはぎ取って惚れ惚れする笑顔をみせていた。「そこには良い子がいるんです」という文が読めた。

His ADHD symptoms can be disruptive, but there's a great kid in there.^{1,2}
Now there's a new way to help him out...

NEW!
for the
treatment
of ADHD³

intuniv
(guanfacine) Extended
Release Tablets
1mg, 2mg, 3mg, 4mg

A new way to reach the kid within

In clinical trials, the most commonly reported adverse events included somnolence, headache, fatigue, and abdominal pain.³
Please see Important Safety Information and Brief Summary of Full Prescribing Information on adjacent pages.

先述の ADHD 専門家会議で、いくつかの広告が映し出されたときに、アッダオール Adderall のような統制薬品を消費者に「直接販売するなどという見込みは、この世にはない」「そのようなことはあってはならないのです」と創業者のグリッグス氏 Roger Griggs は言った。「脳科学に大きな影響を与えてきている製品のことを話しているのです。親はこの種のものにとっても影響を受けやすいのです」

食品医薬品局（FDA : The Food and Drug Administration）は、そのような誤った紛らわしい、あるいは

薬の効果を誇張するような広告を撤回せよ、と繰り返し製薬会社に指示した。しばしば製薬会社がスポンサーとなった多くの研究は、ADHD を治療しないで放置すると後の人生で問題を起しかねないと結論づけているが、しかし、FDA は 2000 年以來、製薬会社にたいして多数の警告文で次のように指摘してきた。いかなる研究も、覚醒剤治療をしさえすれば広告が言っているような包括的な効能を得られる、と結論づけてはいない。

シャイヤ社は、いくつかの薬の不適當な販売と広告という申立を解決するために、2013 年 4 月に 5750 万ドルを支払うことに合意した。それには、ビバンス Vyvanse、アッダオール XR、デイトラナ Daytrana（覚醒剤の投与を経皮でおこなうパッチ薬）も含まれている。シャイヤ社のカソーラ氏 Mr. Casola は、まだ十分に解決済みではないので、コメントは差し控えたいと本紙に断ってきた。



Long lasting
but not too long

The once-daily Daytrana® patch is the only long-acting ADHD treatment that can be removed early to fit your child's changing routine. †
Discover how Daytrana can help your child
† Daytrana® (methylphenidate transdermal system) provides long-lasting symptom control for up to 10 hours when worn for 9 hours—the recommended maximum wear-time. When applied, Daytrana takes effect after 2 hours. Effects will last for up to 3 hours after being removed. Consult your doctor about early removal of the patch.

しかし彼はこう付け加えるのを忘れなかった。会社の現在の宣伝は、その薬物治療をすれば怪獣の子どもをゴミを片付けてくれるような子どもに変えるということを重点に置いているわけでない。むしろ、いかに「症状を制御」できるかを強調するものだと。そして他の治療と薬物治療を併用するときにおきる副作用や危険性を、以前より率直に論じているシャイヤ社のパンフレットとウェブページを、彼は指摘した。

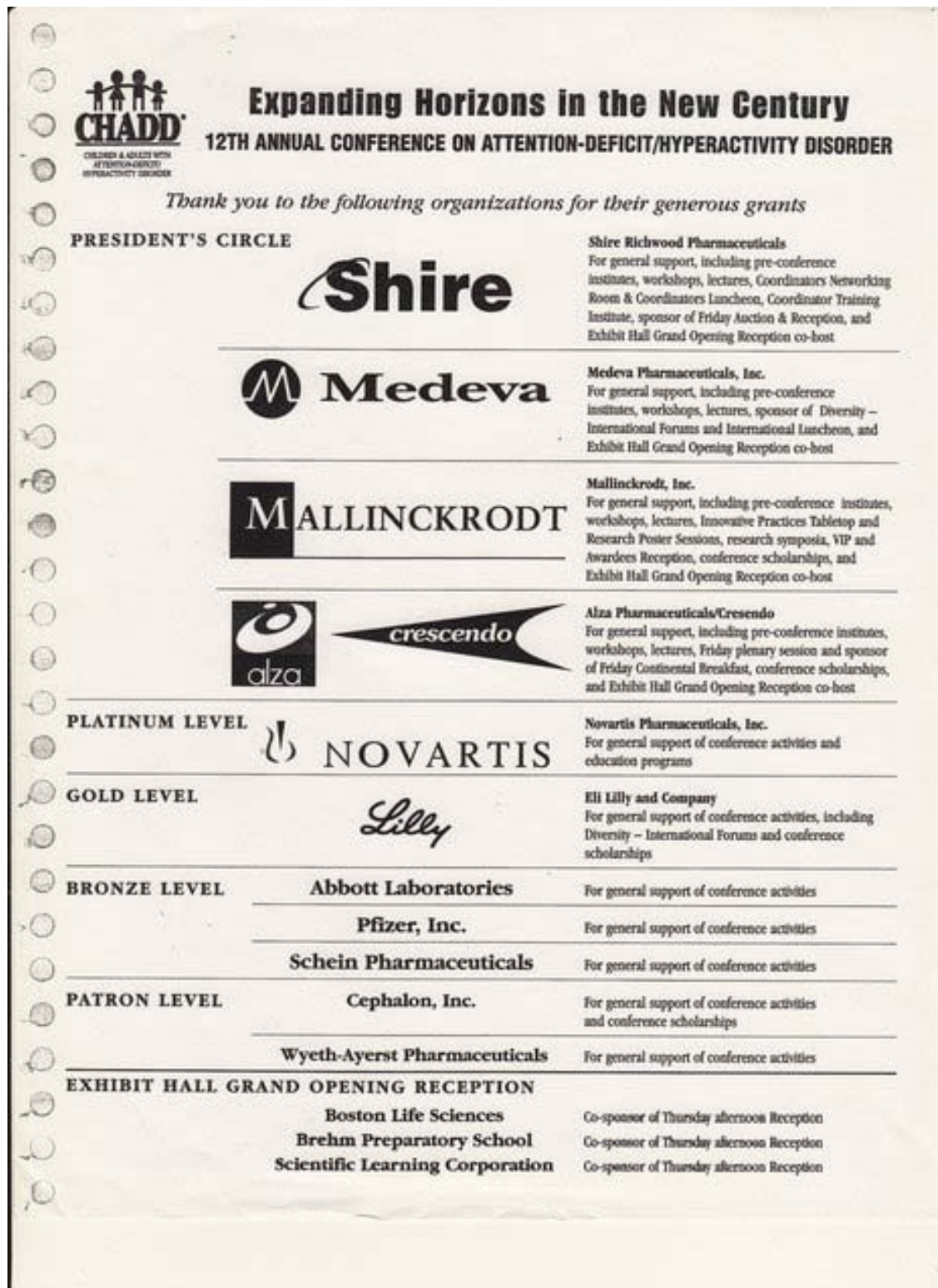
しかしながら批判するひとたちの多くが言ったのは、最も疑問の余地のある広告がいまも実質的には自己発展的な市場の形成に役立っているということだ。また製薬会社は、一見すると製薬会社から独立的に見えるひとびと（ADHD 患者の支援グループや教師たち）を裏口にして、親に直接売り込むルートをつくった。

初期の ADHD 患者の擁護団体「ADHD をもつ子どもと大人」（略称チャド CHADD: Children and Adults with Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder）は 1987 年に創設され、ADHD の症状とリタリンによる治療への関心を高めた。その当時リタリンは利用可能な初期の薬であった。創設の数年後、かなりの額の融資がチバガイギー製薬会社からチャドに提供された。チバガイギー Ciba-Geigy Pharmaceuticals はリタリンの初期の製薬会社だ。さらに多くの製薬会社からの資金提供が、チャドの公共サービス情報とパンフレットづくりを資金援助した。そのなかにはリタリンについての懸念を追い散らそうとするものもあった。CHADD のある「事実報告書」“fact sheet” は、60 年間にもおよぶ科学的研究を無視して、「覚醒剤は中毒を起こさない」と主張していた。

患者擁護団体 CHADD の 2000 年の年次総会プログラムは、初期スポンサー 11 社に謝辞を述べていた。すべて製薬会社だ。

公共放送 PBS の 1995 年のドキュメンタリーは、CHADD が製薬会社と一緒に隠してきた事実を詳細に暴露した。すなわち麻薬取締局 the Drug Enforcement Administration にたいして覚醒剤の政府規制を緩和するようロビー活動をおこなっていた。あるいは教育局 the Department of Education との関係もあきらかにしなかった。CHADD は ADHD の教育ビデオを教育局とともに共同でつくっていたのだ。

CHADD はその後、後援者の名前をあきらかにするほどオープンになった。たとえば 2000 年の年次総会プログラムは、11 社の主要スポンサーを名前を挙げて謝辞を述べている。すべて製薬会社だ。CHADD の記録によれば、シャイヤ社はこの団体に 2006 年から 2009 年まで合計 300 万ドルを支払って、CHADD の隔月誌『注目 Attention』を発行し、全国の医者への診療所に配布した。



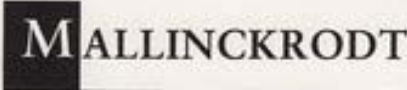




CHADD
CHILDREN & ADULTS WITH
ATTENTION-DEFICIT/
HYPERACTIVITY DISORDER

Expanding Horizons in the New Century

12TH ANNUAL CONFERENCE ON ATTENTION-DEFICIT/HYPERACTIVITY DISORDER

Thank you to the following organizations for their generous grants

PRESIDENT'S CIRCLE		Shire Richwood Pharmaceuticals For general support, including pre-conference institutes, workshops, lectures, Coordinators Networking Room & Coordinators Luncheon, Coordinator Training Institute, sponsor of Friday Auction & Reception, and Exhibit Hall Grand Opening Reception co-host
		Medeva Pharmaceuticals, Inc. For general support, including pre-conference institutes, workshops, lectures, sponsor of Diversity – International Forums and International Luncheon, and Exhibit Hall Grand Opening Reception co-host
		Mallinckrodt, Inc. For general support, including pre-conference institutes, workshops, lectures, Innovative Practices Tabletop and Research Poster Sessions, research symposia, VIP and Awardees Reception, conference scholarships, and Exhibit Hall Grand Opening Reception co-host
		Alza Pharmaceuticals/Crescendo For general support, including pre-conference institutes, workshops, lectures, Friday plenary session and sponsor of Friday Continental Breakfast, conference scholarships, and Exhibit Hall Grand Opening Reception co-host
PLATINUM LEVEL		Novartis Pharmaceuticals, Inc. For general support of conference activities and education programs
GOLD LEVEL		Eli Lilly and Company For general support of conference activities, including Diversity – International Forums and conference scholarships
BRONZE LEVEL	Abbott Laboratories	For general support of conference activities
	Pfizer, Inc.	For general support of conference activities
	Schein Pharmaceuticals	For general support of conference activities
PATRON LEVEL	Cephalon, Inc.	For general support of conference activities and conference scholarships
	Wyeth-Ayerst Pharmaceuticals	For general support of conference activities
EXHIBIT HALL GRAND OPENING RECEPTION		
	Boston Life Sciences	Co-sponsor of Thursday afternoon Reception
	Brehm Preparatory School	Co-sponsor of Thursday afternoon Reception
	Scientific Learning Corporation	Co-sponsor of Thursday afternoon Reception

CHADD の記録によれば、この団体は、この間ずっと毎年 100 万ドルを受けとってきた。年間収入の 3 分の 1 だ。とはいっても、年間収入は製薬会社の補助金と広告費からなのだが。会社による支援にかんしてカソーラ氏は次のように述べた。「それを販売促進費と呼ぶのが公正だ。公正妥当な、互いに対等な立場での関係であると思うね」

「私たちは製薬会社がやることを管理統制はしない」と彼は言った。「むしろ製薬会社を支援する。製薬会社が市場でやろうとしていることを広く支援する——おそらくそう言った方が社会的にはベターかも知れないね」

擁護者の答え

CHADD 最高経営責任者ルース・ヒューズ Ruth Hughes 女史はインタビューで次のように言った。疾病（しっぺい）啓蒙団体も同じように製薬会社の支援を受けているし、製薬会社は CHADD の立場や活動には一切影響を与えていない。また我々はアメリカ疾病管理予防センター（CD：CCenters for Disease Control and Prevention）から毎年約 80 万ドルを受けとっているとも述べた。

「ある製薬会社が CHADD のボランティアとして働きたいと言ってきました。ブースで仲間同士のカウンセリングをするのを手伝いたいと言うのです。それはノーと言いましたよ。そんなことをしなくていい、私たちのブースには来ないでくれ」とヒューズ博士は言って、またこう付け加えた。「そんなことをすればその会社の薬を承認したと見なされてしまいますからね」

ADHD 患者擁護団体はしばしば次のように言う。多くの親たちが精神病という汚名と薬物治療というよく知られた危険性のために、自分の子どもが ADHD だと診断されることに抵抗する。これと闘うために、擁護団体は「ADHD をもつ有名人」のリストを公表してきた。こうして親たちを安心させるのだ。自分の子もあの有名人の「お仲間（同類）」になるのだから。そのなかのひとつが、1990 年代中頃からよく流布していて、いま psychcenterl.com の情報ポータルに掲載されているリストだ。ストラテラ Strattera の2つの広告のそばにあるそのリストには、トーマス・エジソン、エイブラハム・リンカーン、ガリレオ、ソクラテスもはいつているのだ。

子どもの潜在能力を解放するという考えは、教師や学校管理者を惹きつける。彼らは最も乱暴で水準以下の成績をとる生徒たちに対処できるという ADHD 薬の能力に誘惑されやすい。なかには親にパンフレットを渡して、ADHD を説明し、覚醒剤を飲めばよくなると約束する教師もいる。



スーザン・パリーは、息子アンディ 30 歳をもつ母親。アンディが少年だったとき、パリー夫人は息子に覚醒剤を飲ませるよう圧力をかけられた。（ニューヨークタイムズ紙、リック・シベリ・ジュニア記）

スーザン・パリー Susan Parry は 1990 年代にシアトル郊外のマーサーアイランド Mercer Island の公立トップ校で 3 人の息子を育てた母親だが、短気な息子アンディ Andy を ADHD だと認めるよう、教師たちから彼女に強い圧力をかけられた。彼女が言うには、教師のなかには自分の双子の子どもがリタ

リンのおかげで大きく伸びたと彼女に言うものもいた。

パリー夫人はいまでも学校付属の心理学専門医が彼女にくれたそのパンフレットをもっている。それにはこう書いてある。「親は気づくべきだ。このような薬は子どもの脳を‘中毒’にしたり‘変え’しまったりすることはない。その薬は子どもを‘正常’にする」。彼女と夫マイケルはアンディにリタリン Ritalin を飲ませた。パリー夫妻は後になってパンフレットの裏面に小さい印字でチバガイギー Ciba-Geigy 製薬会社のロゴがあることに気がついた。ある学校役員は二人に手紙で述べた。その資料はチバガイギー製薬会社のある代表がその地区に配ったものだった。（その手紙を二人はニューヨークタイムズ紙に提供してくれた）

「彼らが[宣伝できるのは医者と患者擁護団体だけで]まだ一般大衆には宣伝できなかったんです。」とマイケル・パリーは言った。そしてこう付け加えた。自分の息子は決して ADHD ではなかった。それどころか3年後には睡眠障害と心臓の動悸のためにリタリンを止めたのだと。「しかし誰かがこのアイデアを思いついたんだ。天才だよ。私は本当に惹きつけられたし、じっさい誘惑されたんだ。言うならば私は引っかかったんだ」

真性 ADHD の診断と薬物療法をすれば何百万人もの子どもたちがもっと生産的な生活を送れるようになっているのだとしても、まだ懸念が残っている。疑わしい診断で思いがけない費用がかかるからだ。

「彼らは私たちにいつも言っていた。‘いいかい、何か脳に問題があるんだったら、この小さな錠剤を飲めば、すべてがうまくいく’」とミカエラ・キンボール Micaela Kimball は言った。彼は、ニューヨーク州イサカで高校1年生だったときの1997年に、ADHD という診断を受けた人物だ。いまボストンでフリーの作家をしている。「それは僕の全自己像を変えてしまった。そしてその重圧から抜け出すのに何年もかかったんだ」

いまでは7人に1人の子どもが18歳までに ADHD だと診断されている。これらの10代が青年期に移行するにつれ、製薬会社は自分たちのビジネスを維持しつづけようと目論んでいる。

新開地：大人

公開番組の参加者が興奮でどっとどよめいたのは、2年前、ABCの番組「革命」の司会者タイ・ペニントン Ty Pennington が、自分が「大人の ADHD」であることをどう思っているか、を明かしたときだった。

彼は2人のひとをステージ上にあがらせ、同時にいくつかのボールで卓球をさせようとした。その卓球に併せて彼はアルファベットを後から言う演技を披露した。そのとき観衆は手を叩き笑い転げた。その後、深刻な話になったのだ。[つまり自分が ADHD だと告白した]

すると、番組に出ていたある精神科医は言った「刑務所の囚人は、診断されてはいないが、ADHD をもつひとばかりです」。彼は視聴者にこう告げた。「医者に行ってこの診断を受けてください」[そして薬を飲んでください]。そうすれば「あなたは飛躍的に出世します」。彼はこうも言った。覚醒剤による治療は効果的で、「アスピリンよりも安全です」

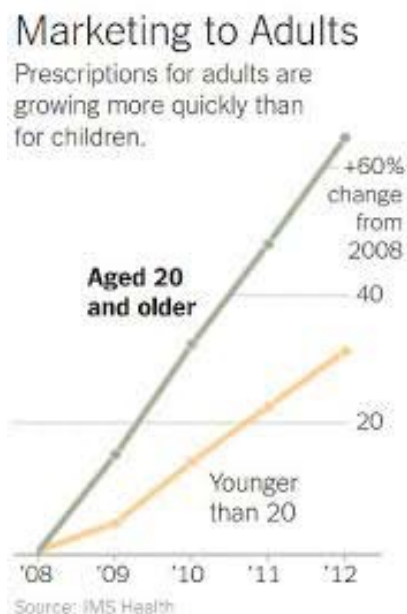
誰も指摘しなかったのは、ペニントン氏が2006年から2008年のあいだシャイヤ社お雇いの広告塔だったということだった。彼は2008年のアッダオール XR のビデオ広告で、薬物治療は“文字通り俺の人生を変え”そして“自分に自信を与えた”と証言した。そしてFDA（食料医薬品局）から懲戒を受けていたのだった。あらゆる危険性を省略してアッダオールの効果を大袈裟に言ったというわけである。

ペニンントン氏はスポークスマンを通して次のように述べた。「私は医学の専門家ではない。テレビの司会者だ」



テレビのホスト、タイ・ペニンントンは大人の ADHD が製薬会社によって市場に出されたときの広告塔だった。
(マイケル・バクナー/ ゲットイ Michael Buckner/Getty)

多くの専門家は、ADHD があまりに長く、ただ単に子どもの病気として片付けられてきたというこは、認めている。アメリカにおける大人の ADHD は——製薬会社のお金でなされた研究によるものだが——だいたい3%から5%と推計されている。大人が子どもよりもずっと数が多いことを考えると、これは大人を対象とした市場が2倍もの大きさになりうることを示している。



なぜなら多くの医者と大人（つまり患者予備軍）は、成人が ADHD をもちうるとは考えていなかったもので、製薬会社は、ADHD 薬だけでなく ADHD という病名を[医者や大人に]売り歩いたのだった。

「いま市場のなかでもっとも急増している部分は、これまで一度も診断をされたことのない新たな大人だ」とアンガス・ラッセル Angus Russell は 2011 年にブルームバーグ TV に語った。そのとき彼はシャイヤ社の最高経営責任者だった。

2012 年には 20 歳から 39 歳までの人々のために、1600 万近い処方箋が、ADHD 薬物治療のために書かれた。『IMS ヘルス』IMS Health によれば、ちょうど 5 年前の 560 万のほぼ 3 倍である。どんなデータも、それらの処方箋の数がいったい何人の患者をあらわしているのかを示してはいないが、専門家のなかには 200 万人だと見積もったひともいる。

シャイヤ社は 2004 年当時、今後の市場を予測しながら、ある小冊子のスポンサーになっていた。その小冊子の特集は、「臨床医が大人の ADHD を認識し診断するための手引き」で、記事の著者は、2 年前アッダオール XR 発売時にあのプレゼンテーションをしたドドソン博士 Dr. Dodson だった。3%から 5%という広く受け入れられている見積もりを採用せず、その小冊子をもっと高い数字を提示していた。

「大人の約 10%が ADHD です。ということはつまり、たとえそうとは知らなくても、あなたもおそ

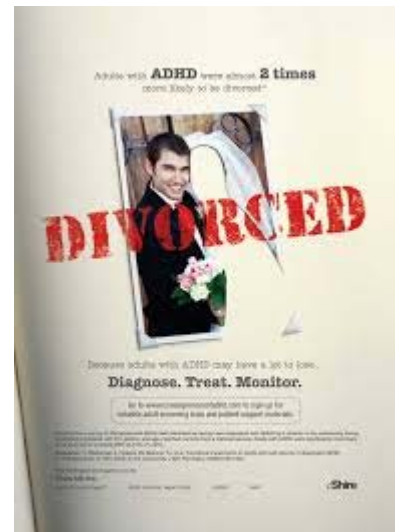
らく既に ADHD をもつ患者を診ているということです」と小冊子第 1 段落は終わっていた。しかし 1995 年と 1996 年のその 10% という数字を引用した 2 つの研究は、子どもだけを含むものだった。それ以前にもそれ以降にも、信頼できる国家的調査研究で、大人の疾病（しっぺい）率が 10% もの高さになっているという見積もりはない。

ドドソン博士は次のように言った。自分が 10% という数字を使ったのは、いくつかの研究が大人の疾病率をかなり低く見積もっているからであり、「その子がいったん ADHD になれば、一生涯つづく。年齢がいったからといって治るわけではない」からだ。

その小冊子の後半部では、彼の患者（スカーレットという名）の声を載せて、医者をお安心させている。「もし飲物か麻薬をくれるなら、私はそれを乱用するでしょうが、この薬は違います。私はそれが麻薬だとは思いません。麻薬は乱用することになります。医薬は人々が満足していく人生を送れるように助けてくれます」

シャイヤ社の 2008 年の、大人の ADHD のため薬剤広告は、予想される患者に気の滅入る未来を描いていた。ある広告では幸福な二人の結婚式の写真が載っていたが、花嫁はエアブラシで白抜きにされ、「離婚」という文字が写真の上に印字されていた。

ビーダーマン博士による研究を引き合いに出して「結果は深刻かも知れない」と広告は言っていた。ところが、その研究はシャイヤ社が一部を資金提供していたものだった。そのビーダーマン博士の研究は、ADHD をもつ大人の離婚率が高いことを示していたが、覚醒剤治療がそういう結果を著しく抑止したのかどうかについては、何の評価もなかった。



疑問の余地のある質問事項

ADHD に関する情報検索をすると、正常なおとなが自分はひょっとするとそうかも知れないと考えさせるような短い質問事項のついたウェブサイトに出会う。その手のテストは、製薬会社がスポンサーとなっている場合が多いが、そのことは隠されているか簡単に見逃してしまうようにつくられている。

「ADHD かも？」ある質問がそう手招きする。シャイヤ社がスポンサーになっている、everydayhealth.com というウェブサイトだ。6 つの質問は、「ものごとを順序立ててできるか」「約束を覚えているか」あるいはプロジェクトを「スタートできるか」といった質問を投げかけ、そのような課題に「どのくらい困難を覚えるか」を尋ねる。

答えが均等に「めったにない」と「ときどき」の間である場合、「ADHD の可能性あり」という結果を受けとる。「ときどき」という答えが 5 つとか、「しばしば」が一つあると、「ADHD の可能性大」とユーザーに言うのだ。

12 月下旬にニューヨークタイムズ紙がおこなった電話による全国的な世論調査では、1106 人の大人がその質問事項に答えた。ほとんど半分が ADHD の「可能性あり」「可能性が大」というような得点となった。

2011 年に広告が流れたあと、「EverdayHealth 日々の健康」テストを約 57 万人の人々が受けた。その広告は、マロン 5 (Maroon 5) という音楽グループを率いるレバイン氏 Mr. Levine が広告塔になっているもので、「医療市場とメディア」Medical Marketing & Media



というウェブサイトによれば、その広告はシャイヤ社、CHADD その他の活動団体がスポンサーとなっていた。薬品コンサータ Concerta のためのウェブサイト上にある同様のテストは、医薬品市場を評価する団体 L2ThinkTank.com から、「そのキャンペーンは天才的」だという最高得点を与えられたほどだった。

「日々の健康」にテストの許可を与えたボストン地区の心理学者、ジョン・グロホール John Grohol は次のように言った。そのような審査ツールは診断をするものではない。それは単に ADHD かどうかを「調べてもらいに行くようにちょっと後押しをする」だけだと。しかし他の医者たちは次のように反論した。多くの研究によれば、「医者は患者が何に悩んでいるかという自己イメージに強く影響される」ことを考えると、そのようなテストで、必要以上に多い患者と医者が、実際は患ってもいない ADHD を見出すことになる。

ADHD かも？と問いかけるオンラインテスト

製薬会社シャイヤ社がスポンサーとなったあるウェブページが、次のような質問を載せている。ごく普通の行動だと多くのひとが思うようなものなのに、自分はひょっとすると ADHD かも？と考えさせる質問なのだ。ニューヨークタイムズ紙が 1106 人のアメリカ人に対して電話で同じ質問事項を問うという世論調査では、半分近くが「ADHD の可能性あり」あるいは「ADHD の可能性が大」という結果になった。そのうちのたった 5%が、医療専門家から ADHD の診断を受けていると言った。

ためしにこの 6 つの質問事項で何点をとるか試してください。そうすれば他のアメリカ人と比べてみるができるでしょう。

1. 企画書に挑戦的課題が含まれていたとき、その最終案をまとめるのにどれくらいの頻度で苦労しますか？

一度もしない めったにしない ときどき しばしば かなりしばしば

「紛らわしいと思いますね」とマサチューセッツ州ケンブリッジの精神科医タイロン・ウィリアムズ博士 Dr. Tyrone Williams は言った。「そこには病気で、おそらく治療可能だと分かるひとが何人かいるだろうと、私だって思いますよ。しかしこういった症状は無数につくれます。ときには答えはとても簡単で処方箋など必要とはしません——たとえば‘8 時間眠ってはいかが、お母さん？なぜなら 4 時間じゃ良くないでしょ？’のような質問をしてみてください。そうするとすべての ADHD 症状はみごとに消滅するのです」

ADHD が家系的なものだという研究が出てきたので、製薬会社は子どもの市場を大人にまで拡大させることに利用している。ジャンセン社（コンサータの製薬会社）による 2008 年発行のパンフレット——「この親にして、この子あり」という見出しを付けたもの——は、「ADHD は非常に遺伝的な障害だ」と主張していた。ADHD 児の親の圧倒的多数が、自分に ADHD の症状はないとしていることが、研究で明らかになっているにも関わらずである。

保険契約のプランは、ADHD についての訓練をほとんど受けていない一次診療医に、ADHD 評価の多くを任せつつある。精神科医のような専門家に[高い]支払いをしたくないからだ。もし一次診療医が診断プロセスについて学びたいと思えば、ウェブ上に掲載されている継続教育のコースに取りかかって資格を取得することもできるが、実は、こういったプログラムは製薬会社が資金援助しているものが多いのだ。

最近の教育課程「大人の ADHD の実態を明らかにする」と題する（メドスケイプ Medscape というウェブ上にあり、シャイヤ社がスポンサーになっている）で特集されていたのは、ある大学教授が仕事関連で睡眠障害になったと語っているのを一次診療医が聞いているという教育ビデオだった。その教授が子どものときの注意欠陥障害を語った 3 分後に、その息子も最近 ADHD だとわかり、薬物治療を受けながら大学で好成績をあげているという内容だった。

エンカウンター訓練が6分たったころ、医者は言った。「もしあなたがADHDなら、まあ多分そうだと私は確信しますが、家族員もしばしば同じ治療を受けた方が良いですね。やってみませんか」

このコースの作成を指導監督した精神科医、メリーランド州のジョン・ホプキンス&ADHDセンターのデイビッド・グッドマン博士 Dr. David Goodman は次のように述べた。シャイヤ社から直接ではないが、メドスケイプによる教育コースを指導監督するのに数千ドルを受けとった。その収入は患者を診断する際になんら影響を与えていない。

しかし、9月にそのビデオを再検討したとき、グッドマン博士は、余りにも簡単にADHDの診断がくだされかねないので、訓練を受けたことのない医者へのメッセージを再検討せざるをえなかった。「あれは、患者を診察しADHDだと診断する方法としては、受け入れがたいものだった」

シャイヤ社のスポークスマンは、そのビデオについてと、会社がそのスポンサーになっていることについて、コメントを断った。

シャイヤ社の副社長カソーラ氏は言った。シャイヤ社はいまでもADHDの知名度を上げることに専心しつづけていると。社内文書に拠れば、シャイヤ社は2013年の1月から9月までに100万ドルを費やした。ADHD学会を支援して、医者教育のためである。今秋もその資金援助を受けた人物が現れた。ペンシルベニア大学医学部の心理学者J・ラッセル・ラムゼイ氏 J. Russell Ramsay だ。彼はシャイヤ社のコンサルタント&代弁人をつとめているが、聴衆に向かい声を大にして自分のスライドの一つを読み上げた。「ADHD—それは皆さんの身近の、どこにでも存在するもの」

「私たちは患者に医療をとどけようとする営利団体です」とカソーラ氏は述べた。「結局、私たちは人々を助けているんです」